

令和6年度「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」 における玉造小学校の結果の分析と今後の取組について

スポーツ庁による「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」について、令和6年4月から令和6年7月末までの期間に、5年生を対象として、「実技に関する調査」と「質問紙調査」を実施いたしました。

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、体力等の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科も含め、総合的に子どもの体力向上をめざしています。

1 調査の目的（全国体力・運動能力、運動習慣等調査に関する実施要領より抜粋）

- （１）子供の体力・運動能力等の状況に鑑み、国が全国的な子供の体力・運動能力の状況を把握・分析することにより、子供の体力・運動能力の向上に係る施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- （２）各教育委員会、各国公私立学校が全国的な状況との関係において自らの子供の体力・運動能力の向上に係る施策の成果と課題を把握し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、子供の体力・運動能力の向上に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- （３）各国公私立学校が各児童生徒の体力・運動能力や運動習慣、生活習慣、食習慣等を把握し、学校における体育・健康等に関する指導などの改善に役立てる。

2 調査の対象

- ・国・公・私立学校の小学校第5学年、義務教育学校前期課程第5学年、特別支援学校小学部第5学年の原則として全児童
- ・玉造小学校では、5年生 104名

3 調査内容

- ・児童に対する調査

ア 実技に関する調査（以下「実技調査」という。測定方法等は新体力テストと同様）
小学校調査では、以下の種目を実施する。

〔8種目〕 握力、上体起こし、長座体前屈、反復横とび、20mシャトルラン、
50m走、立ち幅とび、ソフトボール投げ

イ 質問紙調査

運動習慣、生活習慣等に関する質問紙調査（以下「児童質問紙調査」という。）
を実施する。

令和6年度「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」結果検証 学校の概要

玉造小	学校
-----	----

児童数	104
-----	-----

平均値

5年生	握力	上体起こし	長座体前屈	反復横とび	20m シャトルラン	50m走	立ち幅とび	ソフトボール 投げ	体力合計点
男子	17.73	21.00	34.16	39.46	46.19	9.22	160.51	21.90	54.85
大阪市	15.78	19.09	32.72	38.56	45.05	9.52	147.96	20.45	51.13
全国	16.01	19.19	33.79	40.66	46.90	9.50	150.42	20.75	52.53
女子	17.17	18.13	37.56	35.68	32.96	9.77	145.13	12.41	53.96
大阪市	15.64	18.06	37.62	36.76	34.65	9.83	139.56	12.71	52.47
全国	15.77	18.16	38.19	38.70	36.59	9.77	143.13	13.15	53.92

結果の概要

体力合計点は、本校男子は54.85ポイントであるのに対し、全国平均が52.53ポイント、女子は本校が53.96ポイントであるのに対し、全国平均は53.92ポイントと男女ともに上回る結果をなった。

「運動やスポーツをすることは好きですか」との問いに関しては、肯定的な回答をした割合は、本校男子が100%に対して全国が93.2%、本校女子が68.5%に対して全国が86.2%と男子は6.8ポイント上回ったものの女子は17.7ポイント下回った。

1週間の総運動時間が60分未満の児童は、本校男子が10.4%に対して全国が9.2%、本校女子が21.5%に対して全国が16.0%であり、男女ともに上回っている。

これまでの取組の成果と今後取り組むべき課題

体力合計点については男女ともに全国平均を上回ったが、男女ともに「反復横とび」と「20mシャトルラン」については全国平均を下回った。

「反復横とび」については、本校で継続的に取り組んできた「なわとび運動」が俊敏性の向上に好影響を与え全国平均との差が縮んできている。

「20mシャトルラン」については、本校の児童数が多い上に運動場が狭い等の課題もあり、児童の運動量が十分でないことが考えられる。

また、女子の数値については全国平均を下回っている種目が多いので、女子の運動の機会を増やすような取組等を今後も工夫していきたい。